

東京国立博物館・台東区立書道博物館 連携企画



呉昌碩とその時代

— 苦鉄没後90年 —

Wu Changshuo's Painting, Calligraphy and Seal Engraving
—The 90th Memorial of Kutie—

東京国立博物館
1月2日(火)～3月4日(日)
台東区立書道博物館
1月4日(木)～3月4日(日)

稀代の天才、呉昌碩ワールド!

今年で15回目となる東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画。今回は、没後90年を迎えた呉昌碩(1844～1927)に焦点をあて、その尽きせぬ魅力に迫ります。

書・画・印・硯の名品を2館で一挙公開! 展示総数は176点!! 東京国立博物館で83点、台東区立書道博物館で95点を展示します(2点のみ、両館で時期を分けて展示)。

東京国立博物館 東洋館8室 TOKYO NATIONAL MUSEUM

前期: 1月2日(火)～1月28日(日)
後期: 1月30日(火)～3月4日(日)

開館時間 9:30～17:00 ※金・土曜日は～21:00(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日(ただし1月8日、2月12日は開館)、1月9日(火)、2月13日(火)

観覧料 一般 620円(520円) 大学生 410円(310円) ※()内は20名以上の団体料金

・高校生以下、および満18歳未満と満70歳以上の方は無料です。入館の際、年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。
・障がい者とその介護者1名は無料です。入館の際に障がい者手帳などをご提示ください。・特別展「仁和寺と御室派のみほとけ-天平と真言密教の名宝-」は別途観覧料が必要です。

住所 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 電話 03(5777)8600(ハローダイヤル)

ウェブサイト <http://www.tnm.jp/>

交通 JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分 ※駐車場はありません



台東区立書道博物館 CALLIGRAPHY MUSEUM

前期: 1月4日(木)～1月28日(日)
後期: 1月30日(火)～3月4日(日)

開館時間 9:30～16:30(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月曜日(ただし1月8日、2月12日は開館)、1月9日(火)、2月13日(火)

観覧料 一般・大学生 500円(300円) 高・中・小学生 250円(150円) ※()内は20名以上の団体料金

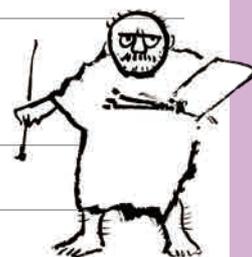
・毎週土曜日は台東区在住・在学の小、中学生とその引率者の観覧料が無料です。
・障がい者手帳または特定疾患医療受給者証をお持ちの方、及びその介護者は無料です。

主催 (公財)台東区芸術文化財団

住所 〒110-0003 東京都台東区根岸2-10-4 電話 03(3872)2645

ウェブサイト <http://www.taitocity.net/zaidan/shodou/>

交通 JR鶯谷駅北口より徒歩5分、JR・京成線日暮里駅南口より徒歩10分
台東区循環バス「北めぐりん」②入谷区民館根岸分館(書道博物館)下車 徒歩3分 ※駐車場はありません





清朝最期の文人、台東区に降臨！

呉昌碩 Wu Changshuo

呉昌碩って、どんな人？

呉昌碩は、清時代の道光24年(1844)8月1日(新暦9月12日)、湖州安吉県(現在の浙江省湖州市安吉県)で生まれました。初名を俊、のちに俊卿といい、中華民国元年(1912)、69歳の時に名を昌碩と改めました。字は蒼石・倉碩、号は苦鉄・缶廬・大聾のほか20余种を用いました。現在では呉昌碩の名で広く親しまれています。

幼少から私塾に通い勉学に精を出しますが、17歳の時、太平天国の乱によって一家は離散、21歳まで凄惨な放浪生活を強いられました。22歳で科挙の受験資格を得るも栄達を望まず、小官に甘んじながら印学の研鑽を積み、次第に書画の才能も開花させました。56歳で安東県(現在の江蘇省連水県)の知事となりますが、腐敗した官界に耐えられず僅か1か月で辞職。その頃すでに盛名を馳せていた呉昌碩は書画篆刻で生計を立て、旺盛な創作を展開しました。69歳以降の15年間は老練の筆致が燦然と輝き、時代を画する活躍を見せ、後世にも多大な影響を与えました。中華民国16年(1927)11月6日(新暦11月29日)、呉昌碩は上海北山西路吉慶里の自室にて84歳の生涯を閉じました。

— 呉昌碩プロフィール —

名	俊・俊卿
字	倉石・蒼石・昌碩
号	缶廬・苦鉄・大聾 など
室号	齊雲館・石人子室・癖斯堂 など
生年	清・道光24年(1844)8月1日(新暦9月12日) 甲辰
卒年	中華民国16年(1927)11月6日(新暦11月29日)丁卯 84歳
官職	光緒25年(1899) 56歳で江蘇 安東県の知事(1か月で辞職)
出生地	浙江 安吉県鄣呉(安吉県安城の説もあり)
父親	呉辛申
母親	萬氏(太平天国の戦乱中に病死)
継母	楊氏
許嫁	章氏(太平天国の戦乱中に病死)
妻	施酒
息子	呉育・呉涵・呉邁
娘	呉丹姮
恩師	呉雲、楊岷、俞樾 など
親友	蒲華、任伯年、沈石友 など
弟子	徐星州、王一亭、趙雲壑 など
趣味	戯曲鑑賞(京劇のスター梅蘭芳の大ファン)

※年齢は数え年で表記しています。



展览会概要

清時代の末期から中華民国の初期にかけて、書・画・印に妙腕をふるった呉昌碩(1844~1927)は、300年近く存続した清王朝の掉尾を飾る文人として知られています。

呉昌碩は終生にわたって紀元前5世紀ごろの古代文字である石鼓文の臨書に励み、その風韻を書・画・印に結実させました。不器用なまでの重厚な運筆の中にも、キラリと光る輝きを秘めた作風は多くの人々を魅了し、日本にも熱烈な愛好者がいます。

2017年は呉昌碩の没後90年にあたります。このたび15回目を迎える東京国立博物館と台東区立書道博物館の連携企画では、呉昌碩の若き模索時代から最晩年までの作品を概観し、その業績を顕彰します。また4年ぶりに台東区立朝倉彫塑館を加えた3館のスペシャル企画として、呉昌碩と日本との交流にも焦点をあて、実は意外に身近な存在であった呉昌碩像を浮き彫りにします。在世中から内外で高い評価を博した呉昌碩の魅力を、台東区内で近接する3館で存分にお楽しみください。

第1期 安吉時代 1歳~38歳(1844~1881)

太平天国の乱に翻弄されて

幼い頃から父の呉辛甲について読書を始め、塾に通って勉学に励みます。太平天国の乱により、17歳から21歳まで凄惨な放浪生活を強いられましたが、苦難の中でも学問への熱意は忘れませんでした。

30代の呉昌碩は、太平天国の乱後の混乱と貧困に苦しみながらも、金石家や収蔵家の知遇を得て古書、書跡、拓本、古印、彝器などを鑑賞し、少しずつ見識を広めていきました。

壮絶な避難生活にもめげず、高いところざし!

① 齊雲館印譜 呉昌碩作

清時代・光緒2年(1876) 33歳
東京国立博物館蔵(東博全期間展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



微笑ましい初々しさ

② 篆書孟子章句扇面 呉昌碩筆

清時代・光緒7年(1881) 38歳
個人蔵(書博全期間展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



模索と葛藤の売芸生活

呉昌碩の40代から50代における書画は模索の段階にあり、素朴な味わいを残しています。書も画も、筆法に石鼓文の筆意を取り入れているところは注目すべきでしょう。56歳で江蘇省安東県令(知事)の重職を得ますが、腐敗した官界に耐えられず僅か1か月で辞職し、その後は売芸によって生計を立てることとなります。

呉昌碩60代の書画は、独自のスタイルが確立されつつある時期です。この頃から上海を中心とした活動が多くなっていきました。



最も若い石鼓の臨書、
形を真似るだけで精一杯

③ 臨石鼓文扇面 呉昌碩筆

清時代・光緒10年(1884) 41歳
京都国立博物館蔵(東博前期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



朴訥な、
40半ばの若書き墨梅

④ 墨梅図軸 呉昌碩筆

清時代・光緒14年(1888) 45歳
個人蔵(書博前期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



来て見て感じて! 金石の気

⑤ 幽蘭図巻 呉昌碩筆

清時代・光緒18年(1892) 49歳
東京国立博物館蔵(東博後期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



リズムカルな石鼓の集字

⑥ 篆書七言聯 呉昌碩筆

清時代・宣統2年(1910) 67歳
台東区立書道博物館蔵(書博後期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	

第3期 上海時代 68歳～84歳(1911～1927)

燦然と輝いた最期の16年間

1912年2月に宣統帝^{せんとう}が退位し、300年近く存続した清王朝はついに滅亡します。彼はこの年、69歳で名を昌碩と改めました。70歳で西泠印社の社長に就任し、篆刻界のトップに立ちます。

70代の書・画・印は、苦難の中で力を奮い立たせて作り上げた、呉昌碩芸術の最高の境地といえるでしょう。

80代を迎えた呉昌碩の書画の特徴は、老練の粘り強い含蓄ある筆致と、何ものにもとらわれない闊達さにあります。筆力は雄渾で、気力の充実したさまが窺えます。



伝統への熱い思い、
見よこの切れ味を！

⑦ 開通褒斜道刻石跋 呉昌碩筆

中華民国元年(1912) 69歳
台東区立書道博物館蔵(書博全期間展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



数少ない自筆の山水！

⑧ 山水図軸 呉昌碩筆

中華民国3年(1914) 71歳
大阪市立美術館蔵(東博後期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



冴えわたる筆墨の諧調

⑨ 藤花爛漫図軸 呉昌碩筆

中華民国5年(1916) 73歳
個人蔵(書博後期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



呉昌碩ワールド、
ここに極まれり！

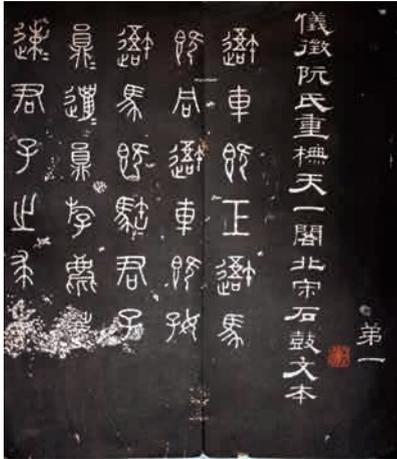
⑩ 臨石鼓文軸 呉昌碩筆

中華民国14年(1925) 82歳
東京国立博物館蔵(東博全期間展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	

生涯を通して…

吳昌碩の心のよりどころ



見やすい石鼓のネタ本です

⑪ 石鼓文-天一閣本- 阮元模

戦国時代・前5～前4世紀/
清時代・嘉慶2年(1797)
台東区立書道博物館蔵(書博全期間展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



いつか見たかった、 あこがれの石鼓

⑫ 石鼓文-中権本-

戦国時代・前5～前4世紀
三井記念美術館蔵(書博後期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	

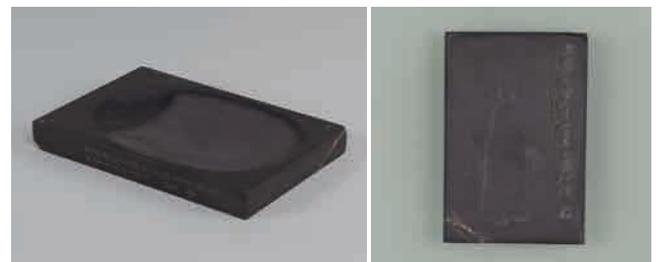


金トレ成果、ここにあり!

⑬ 行書齊侯壘識語軸 吳昌碩筆

清時代・光緒28年(1902) 59歳
個人蔵(東博全期間展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	

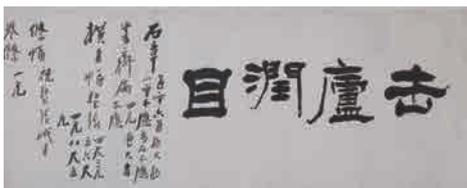


親友・沈石友とのコラボ

⑭ 沈氏研林所載硯のうち 缶盧自写小象硯

吳昌碩銘: 中華民國3年(1914) 71歳
個人蔵(東博前期展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



ひと肌脱いだ兄貴分、 職業文人を後押し!

⑮ 行書缶盧潤目横披 楊峴筆

清時代・光緒16年(1890)
楊峴72歳、吳昌碩47歳
個人蔵(東博全期間展示)

素朴度	
古典度	
金石度	
華麗度	
重厚度	



関連イベント

呉昌碩と朝倉文夫 Wu Changshuo and ASAKURA Fumio

台東区立朝倉彫塑館 ASAKURA Museum of Sculpture, Taito

2018年1月5日(金)～3月7日(水)

開館時間 9:30～16:30(入館は閉館の30分前まで)

休館日 月・木曜日(ただし1月8日、2月12日は開館)、1月9日(火)、2月13日(火)

観覧料 一般・大学生 500円(300円) 高・中・小学生 250円(150円) ※ ()内は20名以上の団体料金
・毎週土曜日は台東区在住・在学の小、中学生とその引率者の観覧料が無料です。
・障がい者手帳または特定疾患医療受給者証をお持ちの方、及びその介護者は無料です。

住所 〒110-0001 東京都台東区谷中7-18-10 電話 03(3821)4549

ウェブサイト <http://www.taitocity.net/zaidan/asakura/>

交通 JR、京成線、日暮里・舎人ライナー日暮里駅より、北改札口を出て西口から徒歩5分
台東区循環バス「東西めぐりん」⑨⑩谷中壺園入口下車 徒歩約8分 ※駐車場はありません。

3館いずれかの観覧券の半券をご提示いただければ、各館の会期中に限り団体割引料金で観覧できます(各種割引の併用はできません)。

東京国立博物館

連携講演会 「呉昌碩とその時代」

東京国立博物館学芸企画部長 富田 淳
台東区立書道博物館主任研究員 鍋島稲子
日時:2018年2月3日(土)13:30～15:00
会場:東京国立博物館 平成館大講堂
定員:380名(当日先着順)

※聴講無料、ただし当日の観覧料が必要です。



ギャラリートーク 「呉昌碩とその時代—苦鉄没後90年—」

東京国立博物館学芸企画部長 富田 淳
日時:2018年1月16日(火) 14:00～
会場:東京国立博物館 東洋館8室
※事前申込不要、聴講無料。ただし当日の観覧料が必要です。



台東区立書道博物館

ギャラリートーク 「呉昌碩とその時代」

日時 2018年1月16日(火)①11:00～
2月18日(日)②10:00～、③13:30～

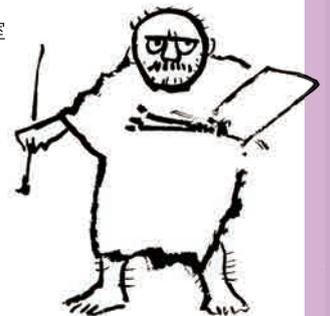
※事前申込制で各回20名。往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、年齢、希望日時を、「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記して下記までお申してください。1通のはがきで1名・1回の申込みとなります。聴講無料。ただし当日の観覧料が必要です。

申込先:〒110-0003台東区根岸2-10-4
台東区立書道博物館 ギャラリートーク係
締切:①1月9日(火)、②・③2月7日(水)必着



ワークショップ 「呉昌碩の書に挑戦！」

日時:2018年2月18日(日)の開館時間中随時
会場:台東区立書道博物館 会議室
参加費:100円(材料費)
※別途、当日の観覧料が必要です。



報道関係の方からの問い合わせ先

「呉昌碩とその時代」広報事務局 担当:富樫、大原

〒101-0051 千代田区神田神保町2-13 神保町MFビル701

TEL:03-3237-3124 / FAX:03-3237-3122 / 携帯:080-5443-1112 / E-mail:jtogashi@annex-inc.jp

吳昌碩とその時代 — 苦鉄没後90年 —

広報用貸出画像/招待券プレゼント申込書(FAX専用)

本展覧会の広報用貸出画像データ/読者プレゼント招待券を希望される方は本用紙に必要事項をご記入の上、広報事務局までFAXでお申込みください。

● 画像は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。展覧会終了後の利用、また二次利用はお断りします。 ● 画像掲載にあたっては作品名・所蔵先・展示期間と展示会場を必ずご記載いただきますようお願いいたします。 ● 読者プレゼント招待券の提供は、作品画像を掲載し本展覧会開催中にご紹介いただける場合に限り、1媒体につき5組10名様まで受け付けます。また、お手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願いいたします。 ● 基本情報の確認のため、校正を広報事務局にご送付ください。 ● ご掲載紙・誌は広報事務局までご送付いただきますようお願いいたします。

貴社名		メディア・部署	
ご担当者		ご住所	
TEL		FAX	E-mail
貸出希望日 月 日 時頃まで		掲載予定日(発売日)	
コーナー名		通信欄	

<input type="checkbox"/> ① 齊雲館印譜 清時代・光緒2年(1876) 東京国立博物館蔵(東博全期間展示)	<input type="checkbox"/> ⑪ 石鼓文-天一閣本- 戦国時代・前5~前4世紀/清時代・嘉慶2年(1797) 台東区立書道博物館蔵(書博全期間展示)
<input type="checkbox"/> ② 篆書孟子章句扇面 清時代・光緒7年(1881) 個人蔵(書博全期間展示)	<input type="checkbox"/> ⑫ 石鼓文-中樞本- 戦国時代・前5~前4世紀 三井記念美術館蔵(書博後期展示)
<input type="checkbox"/> ③ 臨石鼓文扇面 清時代・光緒10年(1884) 京都国立博物館蔵(東博前期展示)	<input type="checkbox"/> ⑬ 行書齊侯壘識語軸 清時代・光緒28年(1902) 個人蔵(東博全期間展示)
<input type="checkbox"/> ④ 墨梅図軸 清時代・光緒14年(1888) 個人蔵(書博前期展示)	<input type="checkbox"/> ⑭ 沈氏研林所載硯のうち缶盧自写小象硯 吳昌碩銘: 中華民国3年(1914) 個人蔵(東博前期展示)
<input type="checkbox"/> ⑤ 幽蘭図巻 清時代・光緒18年(1892) 東京国立博物館蔵(東博後期展示)	<input type="checkbox"/> ⑮ 行書缶盧潤目横披 清時代・光緒16年(1890) 個人蔵(東博全期間展示)
<input type="checkbox"/> ⑥ 篆書七言聯 清時代・宣統2年(1910) 台東区立書道博物館蔵(書博後期展示)	読者プレゼント招待券 <input type="checkbox"/> 5組10名 希望します
<input type="checkbox"/> ⑦ 開通褒斜道刻石跋 中華民国元年(1912) 台東区立書道博物館蔵(書博全期間展示)	
<input type="checkbox"/> ⑧ 山水図軸 中華民国3年(1914) 大阪市立美術館蔵(東博後期展示)	東京国立博物館(東博) 前期: 1月2日(火)~1月28日(日) 後期: 1月30日(火)~3月4日(日) 台東区立書道博物館(書博) 前期: 1月4日(木)~1月28日(日) 後期: 1月30日(火)~3月4日(日)
<input type="checkbox"/> ⑨ 藤花爛漫図軸 中華民国5年(1916) 個人蔵(書博後期展示)	
<input type="checkbox"/> ⑩ 臨石鼓文軸 中華民国14年(1925) 東京国立博物館蔵(東博全期間展示)	

報道関係の方からの
問い合わせ先

「吳昌碩とその時代」広報事務局 担当: 富樫、大原
〒101-0051 千代田区神田神保町2-13 神保町MFビル701
TEL 03-3237-3124 / FAX 03-3237-3122 / 携帯 080-5443-1112 / E-mail jtogashi@annex-inc.jp